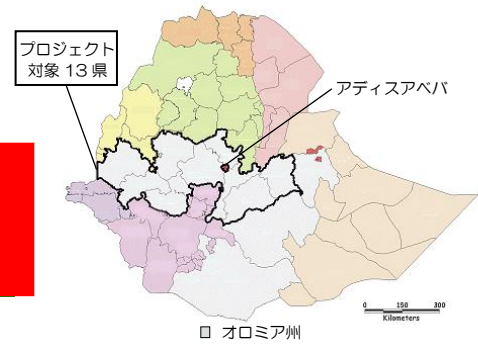




Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために！



学校レベル研修はどんな状況？-3

～ プロジェクト独自のモニタリングを通して ～

今年1月から始まったプロジェクトチームによる学校レベルでの研修のモニタリング。今回は、主に研修実施回数の多い学校を選び、アラルト小学校とドゴマ小学校（北ショア県）、アンバ24小学校（ホロ・グドゥル・ワレガ県）、ナカムテ特別市（東ワレガ県域内）のプルカ・ベクムサ小学校、そして、これらの中心校を管轄する郡および特別市教育事務所（WEO/STEO）を訪れ、関係者に聞き取り調査を行いました。

アンバ24、堂々1位！15回の研修を実施



今回、訪問した学校のうち、研修回数が最も多かったのはアンバ24小学校。中途退学（DO）、女子教育（GE）、学校改善（SIP）の3つのテーマを中心校・衛星校4校であわせて計15回！の研修を実施しています。続いて、ドゴマ小学校の9回。どの学校も、3つの研修キットもきちんと管理されて

おり、「さすが几帳面なエチオピア人！」と私たちも驚くほどでした（写真上）。

表1: 研修回数と報告書の提出数

| CRC | 県 | 中心校 | | | 衛星校 | | | 合計 |
|----------|-------------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | | DO | GE | SIP | DO | GE | SIP | |
| アラルト | 北ショア | 2(2) | 1(1) | 1(1) | 0 | 0 | 0 | 5(5) |
| ドゴマ | | 3(1) | 3(1) | 3(1) | 0 | 0 | 0 | 9(3) |
| アンバ24 | ホロ・グドゥル・ワレガ | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 4(0) | 4(0) | 4(0) | 15(3) |
| プルカ・ベクムサ | ナカムテ特別市 (東ワレガ) | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 0 | 0 | 0 | 3(3) |

※左側の数字は研修回数。()内は報告書提出数

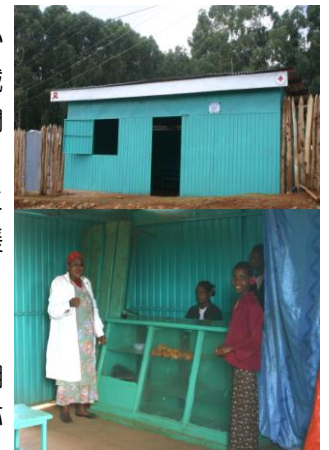
研修後の取り組み

1年目の研修は「気づき」を主要目的としていますが、各中心校でファシリテーター（進行役）を務めたクラスター・リソース・センター（CRC）担当官や中心校の校長、主任によれば、研修に参加したコミュニティ（地域住民）は、これまで漠然とらえていた中途退学、

女子教育、学校改善についての問題意識を深め、それが課題改善のための活動につながっているようです。そうした活動は、研修の結果、新たに始まった活動もあれば、これまで停滞していた活動が活性化したものや、なかなか進まなかった計画が具体化したものもあります。これらの活動は、教育行政と地域住民の協働を通じたこれまでのさまざまな取り組みとも連動し、相乗効果をあげているとのこと。参加者の態度変容や各CRCでの活動の一例をご紹介しますと...

<中途退学>

- 研修に参加し、ゲームで退学しそうになった保護者が、中途退学した自分の子どもを復学させた（ドゴマ）。
- 復学のための相談を学校にもちかけてくる保護者が増えた（アラルト、アンバ24）。
- 昨年この時期約150名いた中途退学者が今年は50名程度まで減少（アラルト）。
- 昨年の同時期に比べて中途退学者が減っている（アンバ24）。
- 地域住民の寄付金や赤十字から支援をもとに、教員や地域住民のためのお茶クラブを開店（右写真）。その収益金で、中途退学ラインにいる児童にノートを提供するなどの支援を開始（プルカ・ベクムサ）。



<女子教育>

- 地域の大きな問題である早期結婚について話し合い、対応を検討（アンバ24）。
- 個人寄付や教員からの寄付を募り、孤児やHIV感染者（20名のうち16名が女子）への給食提供を開始（プルカ・ベクムサ）。

<学校改善>

- 研修に参加した児童が学校環境改善について話し合い、環境整備に取り組んでいる（アラルト）。
- 授業開始前の朗読プログラムを開始（ドゴマ）。
- 校長室の床をセメント張りにし、GEQIP交付金を使って机といす73組を購入（アンバ24）。

*Ho! はオロモ語でHoggansa（運営）の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa（コミュニティの学び舎）の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

- SIP 研修以後、前期中等を含む学校に昇格させようという計画が急速に具体化され、同校の敷地内に中学校を建設中（アンバ24）。
- 学校設備の問題をリストアップ・議論し、最優先の課題となったフェンスを設置（ブルカ・ベクムサ）。



CRC 担当官とともに、15 回の研修を実施したアンバ24のシマサ校長（左）。校長室の壁はまだ土壁ですが、研修の結果、地域住民の協力を得て、床をセメントに張り、写真下は、同校敷地内に建設中の中学校。



GEQIP 交付金と住民からの寄付金

研修の後、具体的な行動に起こすためのリソースの確保も大切です。エチオピアでは学校運営への地域住民の協力は不可欠です。政府予算が乏しく、学校運営資金も大部分は地域住民からの寄付金で賄われるという下地がすでに存在することから、研修後の取り組みにも学校資金の一部がうまく運用されています。さらに、2009年3月に正式に始まった「教育の質向上のためのプログラム（GEQIP）」を通じて昨年12月には学校交付金が学校レベルに拠出されており、アンバ24ではこの交付金も研修後の取り組み費用に充てています。表2でもわかるように、エチオピアでは、地域住民からの寄付金の方が政府の交付金を上回るのが当たり前、特にベルカ・ベクムサのように特別市の中心校は寄付の規模も群を抜いています。エチオピアでの、地域住民の貢献度がいかに大きいかがわかりますね。

表2: GEQIP 学校交付金と住民からの寄付

| CRC | GEQIP 交付金 | | 地域住民からの寄付 | | | 児童数 (09/10) |
|----------|-----------|---|-------------|-------------------|--|-------------|
| | 金額 | 運用項目 | 金額 | 収入源 | 運用項目 | |
| アラルト | 26,565 | <ul style="list-style-type: none"> 施設修復 図書 掲示板 | 45,000 | 保護者や児童からの寄付 | <ul style="list-style-type: none"> いす 教室の壁の塗装用具 | 1,293名 |
| ドゴメ | 13,650 | <ul style="list-style-type: none"> 文具、教材 | *1 1,920 | 10ブル/世帯 | <ul style="list-style-type: none"> 警備員の給与 | 837名 |
| アンバ24 | 25,800 | <ul style="list-style-type: none"> 机といす73組 2教室の修復 | 32,000 | 8ブル/世帯、土地貸付代、現金作物 | <ul style="list-style-type: none"> 校長室の床修復 文具、教材 | 1,506名 |
| ベルカ・ベクムサ | 32,445 | <ul style="list-style-type: none"> 机といす50組 図書室の机 教室のドア | 100,661 | 50ブル/世帯 | <ul style="list-style-type: none"> フェンス お茶クラブ設置 図書室の机 文具 | 1,849名 |

注: 下線部の活動は研修の後に取り組みされた活動。 *1: 警備員の給与のみ(必要に応じて寄付を募る)
単位: エチオピア・ブル(1ブル = 7円)

多くの成果、これからの課題

今回のモニタリングは、研修実施回数の多いCRCを対象としていることもあり、研修実施から具体的な取り組みへのプロセスは、予想以上に円滑に進んでいることが確認されました。研修報告書については、研修実施と提出とのタイムラグ（表1）や、報告内容の不備などが判明しており、今後はファシリテーター（進行役）の役割の一環としての質の高い報告書の作成能力強化にも力を入れていく必要があります。また、継続的な研修実施のためのファシリテーターの確保も重要です。今回のモニタリング対象となったWEO/STEO管轄下のプロジェクトパイロット中心校すべてにおいて、昨年、開催したTOT研修（しんぶん12・13号参照）に参加したCRC担当官・校長・主任のうち、最低でも、どれか一つのポストの異動が確認されています。独自のTOTを実施しているアラルト小学校のような例もありますが、プロジェクトとしても、地域ごとにファシリテーター研修が開催できるような仕組みを検討中です。さらに、農作業に忙しい地域住民や女性の参加奨励にも工夫が必要で、アラルト小学校やアセラ小学校での好事例（しんぶん15・16号参照）を共有できるよう、菊池カラナ短期専門家（ビジュアル教材）を中心に、情報共有の支援も準備しています。そして、これらの学校レベルでの研修の実施や報告を監理するWEO/STEOの能力強化も欠かすことのできない課題です。



ブルカ・ベクムサ小学校にて。校長室の前に研修キットを展示して、出迎えてくれた。左から、メガルサCRC担当官、ワクジラ主任と元氣いっぱいの子供たちが描いた絵を、お土産にいただきました。

What's next?

今回のモニタリングでは「研修を通じて地域住民が問題意識を深めたら、次のステップは何？」という質問も関係者に聞きました。これに対して、問題意識の高まりの延長として「計画を立てて、優先付けした改善活動が始められるようにすること」、アクセスの次のステップとして「(子どもが学校に来るようになったら) 質の高い教育を提供していくことが大事」という2通りの反応がありました。後者については、主にアクセスに関してはもはや女兒数が男児数を上回る特別市の中心校から繰り返し出される要望でもあります。これらのニーズ対応について、プロジェクト内で毎日のように議論しています。詳細はいつれお伝えします。楽しみに！

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBUは Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

現地コンサルのモニタリングは？

3号連続で、プロジェクト独自のモニタリングを通じた学校レベル研修の様子を報告してきました。するどい読者の方々は、「あれ、現地コンサルタントを備上してモニタリングやってなかった?」「結果はどうか?」と突っ込みたい気持ちだと察します。確かに、3月下旬には最終報告書が提出されるはずだったのですが・・・。

15号のしんぶん、コンサルタントがトライアルで実施した北ショア県のモニタリング報告とともに、その内容を改善するためにコンサル向けの講義を4時間もかけて行い、「プロジェクトでお金を払っているのに、彼らの能力向上までやらないといけないのか?」という愚痴(?)で終わっていたと思うのですが・・・。

その後、コンサルタントは5つのチームに分かれ、残りの12県の研修状況を、WEO/STEOの行政官・CRC担当官・中心校の校長や主任・コミュニティ(地域住民)へのインタビューを通してモニタリングし、各県ごとの報告書が提出されたのですが・・・。

「前回より質の低い報告書がたくさん!」と目を疑い、「あの4時間は、何だったの?」と大きなため息……。そうなんです。未だに、ドラフトレポートさえ完成していない状況なのです。「何なんだ!これは!」と怒鳴りたい気持ちを抑え、報告書へのコメントを、例を挙げながら丁寧に説明した文書を作成し送付したり、協議の場でも「こうやって作成して!」というフォーマットのサンプルまで手交し、「とりあえず、1県の報告書をきっちり仕上げよう」と依頼したり・・・。

なぜ、そんな手厚すぎる対応をとるかということ、結局「インタビューの精度が低い → データの質が悪い → そんなデータを基に報告書を作成しても内容が薄い」ということをコンサルタントに気づいて欲しいという親心(?)なのですが・・・。「気づき?」んー、ここでも「気づき」かよ! てことは、コンサルタントに気づいてもらうための教材を作成しないと・・・(笑)。

話が飛びますが・・・、いろんな方々から「エチオピアでこんなしっかりした教材作れるの?」と言わしめた、ITP研修教材を一手に引き受けてくれた業者は、今では他のプロジェクトからも注文を受けるほどまでに成長しましたが・・・。当初(ManaBUプロジェクトの時代)は、ガイドラインの構成に何度も我々からダメ出しを受けたり、カレンダー作成の際は、完成品の半数を突っ返されて再度印刷したり...と、散々だったのです。

「どこかに、いいコンサルがいるかもしれない!」と探すのも一手ですが、「中間評価や終了時評価までに、きちんとモニタリングできるように育てる」というのも大事なことなんですよ(と自分に言い聞かせ)。「そうだ!」(と自分で答える)。

元気になる「気」を感じました!

～元・技プロホームページ担当者からのメッセージ～

JICA 技術プロジェクトホームページの所管の変更に伴い、ホームページ支援班がなくなることになり、ManaBU しんぶん時代から側面支援していただいていた桂裕之さんから、以下のようなメッセージをいただきましたので抜粋して紹介します。桂さんには「ManaBU ソング制作までのいきさつを書いてみては?」「カレンダー応募は、不特定多数が見るホームページに掲載してもいいのですか?」「この写真の掲載は許可を取った方がいいですよ」といった助言を頂戴し、ちゃんと「しんぶん」読んでいただいているんだなー!と実感していたのですが...。まさか、元気になる「気」まで感じていただいていたとは...。ハワイも「ホームページ支援班の方から、このような温かいメッセージをわざわざいただくとは!」とびっくり。

改めて、「しんぶん」はいろんな方々の支援を基に作成されているんだなーと感じるとともに、大きな励みにもなりました。読者の皆さんからの感想・コメント、今後ともよろしく!

JICA 技術協力プロジェクトホームページを担当していた桂です。私は今年の3月31日を以って技プロHPの仕事を卒業させていただきました。今までのご支援とご指導につきまして、厚くお礼を申し上げます。

毎月、楽しい記事の送信ありがとうございます。前回のプロジェクトにあたる「住民参加型基礎教育改善プロジェクト(ManaBU)」のお話ですが、歌とビデオと歌詞を掲載させていただいた時には、とても楽しく作業を進めさせていただくことができました。

昔では、コンピュータに向かう作業は多大なストレスとともにあると思われているようですが、貴プロジェクトのホームページ掲載には当てはまりません。現地で活動される皆様が活き活きと活動されその様子を伝える記事には、インターネットの機器管理やホームページ掲載作業を担当する人たちをも元気にする「気」のようなものがあると思えます。プロジェクトの雰囲気「しんぶん」を通じて、ホームページ作業班に伝わっているとと思えます。作業担当を元気にする「気」が沢山つまった「しんぶん」のご提供、あらためてお礼を申し上げます。

最後になりますが、甚だ微力ではありますが、プロジェクトの広報をお手伝いする機会をいただいたことをとても光栄に思っています。皆様の事業や活動のご発展を心よりお祈りしております。

(株)国際協力データサービス 桂 裕之